

編集委員・藤井洋一

あ・ん

## キンボールスポーツ

「キンボールスポーツ」という競技をご存じだろうか。直径1・2センチの子供の背丈ほどもあるゴムボールを使ったカナダ発祥の球技だ。日本に導入されたのは1997（平成9）年とまだ日が浅い。1チームは4人編成。攻撃チームは3人でボールを支え、1人が腕全体で打ち上げる。これを守備チームが床に落とさないよう受けとめる。

簡単なルールだが、守備側は4人のうち3人がボールに触れる必要がある。さらにそれから5秒以内に、攻撃態勢に転じなければならぬ。これが、ゲームを奥深いものになっている。

巨大なボールは1人で持ち切れず、3人が呼吸をそろえて受けとめないと床に落ちる。チームの残る1人は常にゲームの流れを把握し、ボールに追いつかないと、攻撃姿勢に移れない。

個人技より、チーム4人の連携が勝敗を分ける。抜群の運動神経を持つ選手が1人いても、残る選手がついてこられなければボールは床にころがるだけだ。

実際に観戦するうち、ボールが地球のミニチュアに見えてきた。選手はさしずめ、世界の国々というところか。

強大な軍事力や経済力を誇る国でも、単独でボールを支配することは許されない。規模を問わずすべての国がこのボールの行方に関心を持ち、より良い方向に進むよう力を合わせねばならない。

競技団体によると、選手の一体感を養うのがキンボールの狙いという。来年11月には宝塚で世界大会がある。その際、世界地図の絵柄で地球を模したボールを使ってはいかがか。各国が一体となって平和に取り組みよう求めるメッセージを、宝塚から発信する絶好の機会だ。